

第2章

現況特性と課題の把握





2 現況特性と課題の把握

1 岡垣町の概要

岡垣町は福岡市と北九州市の間に位置し、町域は東西に 10.4km、南北に 8.6km、面積は 48.64 km²となっています。

双方への通勤・通学に便利なベッドタウンとして発展してきました。

北は響灘に面しており海沿いには 12km もの松林が続く三里松原を有しているほか、南側には標高 300～400m 級の山々が連なり、海と山に囲まれながら便利な生活をする事ができる環境を有しています。



出典：岡垣町定住促進サイト

2 岡垣町の現況整理

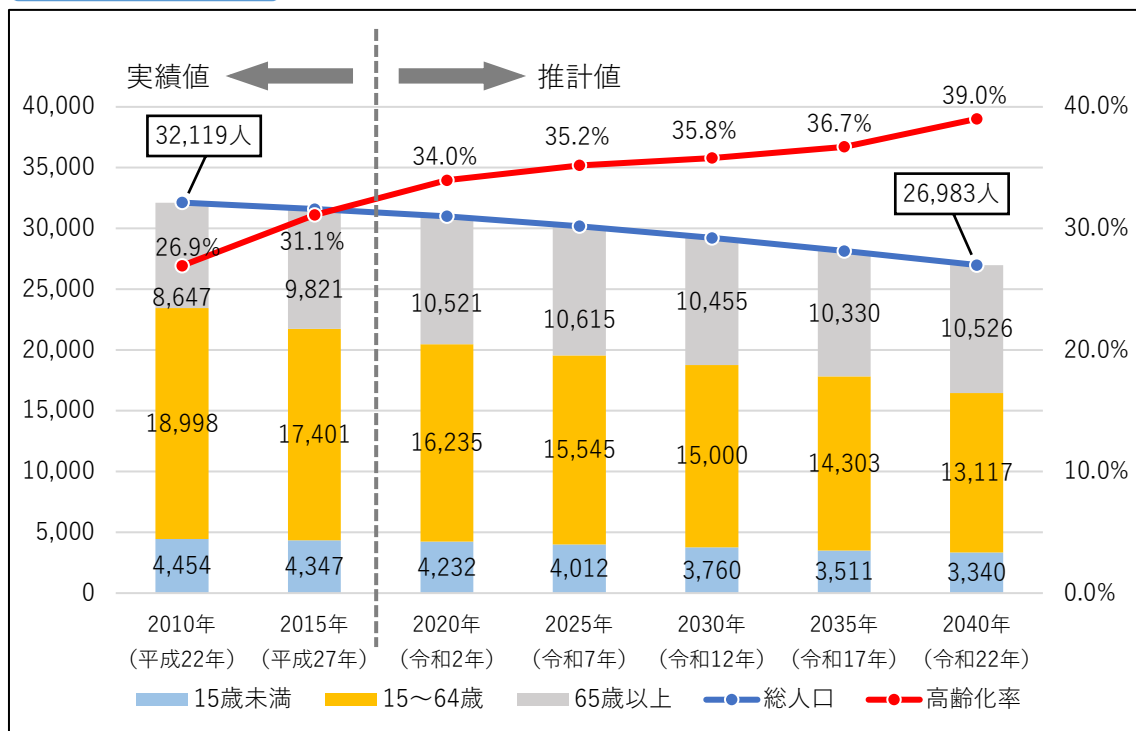
1. 人口動向

岡垣町の人口は2010年（平成22年）をピークに減少傾向となっており、2010年（平成22年）の国勢調査によると総人口は32,119人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、今後も岡垣町の総人口は減少すると見込まれており、2040年（令和22年）の総人口は、2010年（平成22年）と比較して8割程度まで減少しています。

総人口の減少が続く一方で、高齢化は続いており、今後も増加傾向であることが見込まれています。2040年（令和22年）の高齢化率は2010年（平成22年）と比較して約12ポイントの増加となっています。

岡垣町の人口動向



※総人口には年齢不詳を含むため、年齢別の内訳と合計の数値が異なります

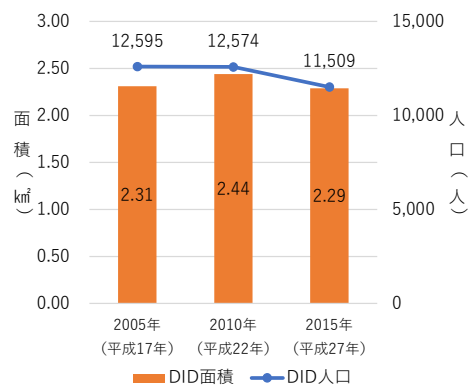
出典：（実績値）国勢調査（推計値）国立社会保障・人口問題研究所



人口集中地区（DID）人口は2005年（平成17年）から2015年（平成27年）の間で1,086人減少しており、市街地の低密度化が進行しています。

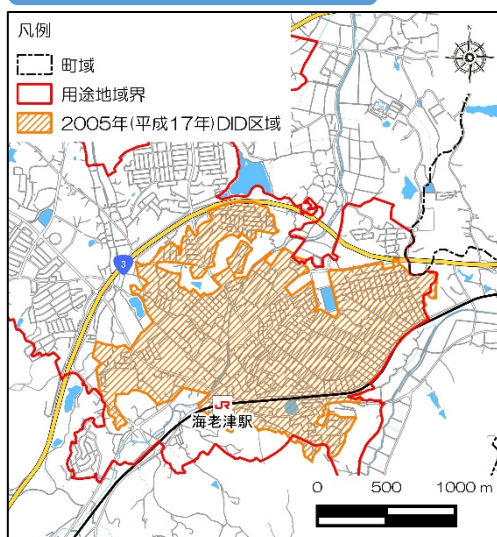
DID に指定されている区域の推移をみると、2005年（平成17年）から2010年（平成22年）の間で、国道3号の南側で拡大し、2010年（平成22年）から2015年（平成27年）の間では、野間交差点周辺で拡大していますが国道3号の南側、JR海老津駅の南西側は縮小しています。

人口集中地区(DID)の動向

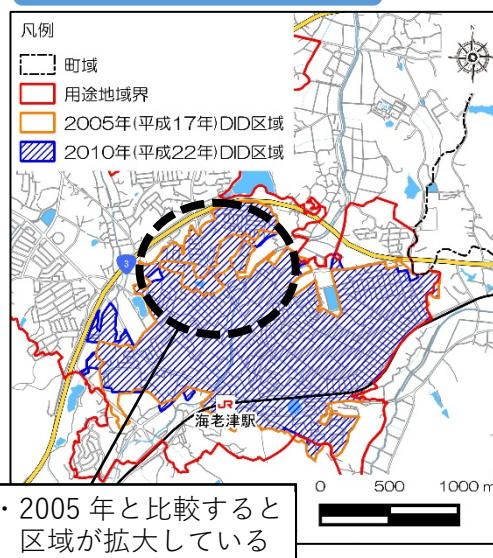


出典：国勢調査、国土数値情報

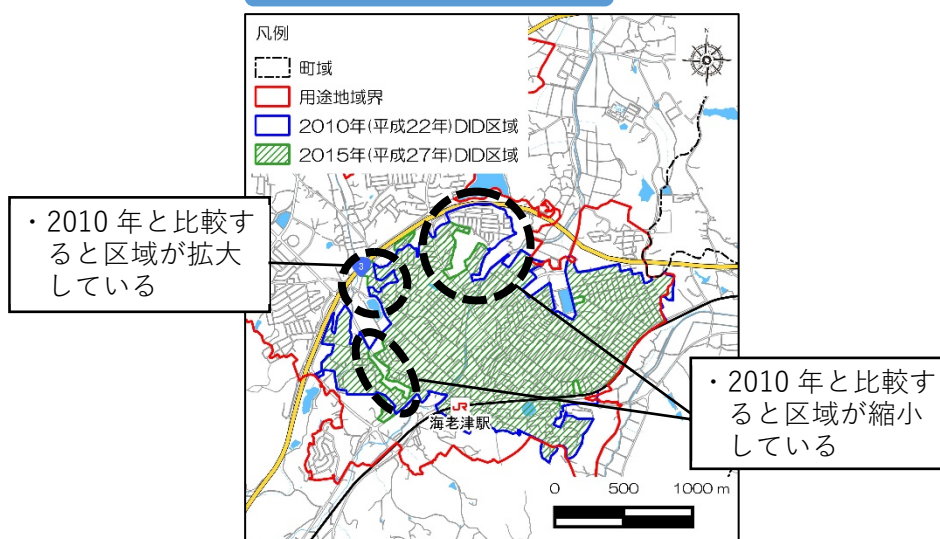
2005年(平成17年)DIDの状況



2010年(平成22年)DIDの状況



2015年(平成27年)DIDの状況



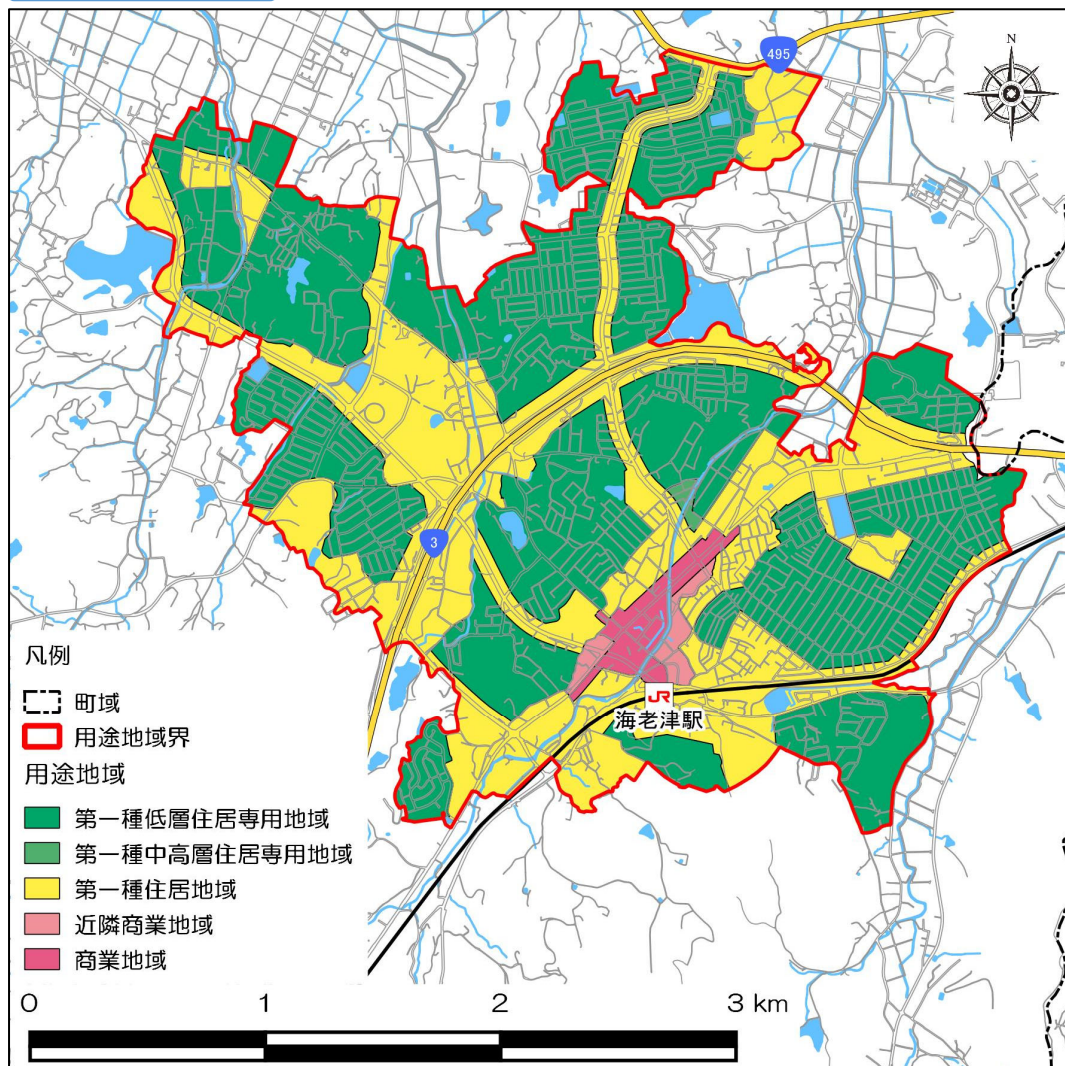
出典：国土数値情報

2. 土地利用状況

用途地域指定状況をみると、JR 海老津駅北側に商業系の用途地域が指定されています。工業系用途地域の指定はなく、JR 海老津駅北側を除いて全て住居系の用途地域となっています。

住居系の用途地域のうち、第一種低層住居専用地域の割合が高くなっています。

用途地域の指定状況



出典：2016 年（平成 28 年）都市計画基礎調査



(1) 用途地域内の土地利用状況

用途地域内の土地利用状況をみると、都市的土地利用が全体の 73.1%を占めており、住宅用地が最も多く全体の 40.5%を占めています。

(2) 用途地域外の土地利用状況

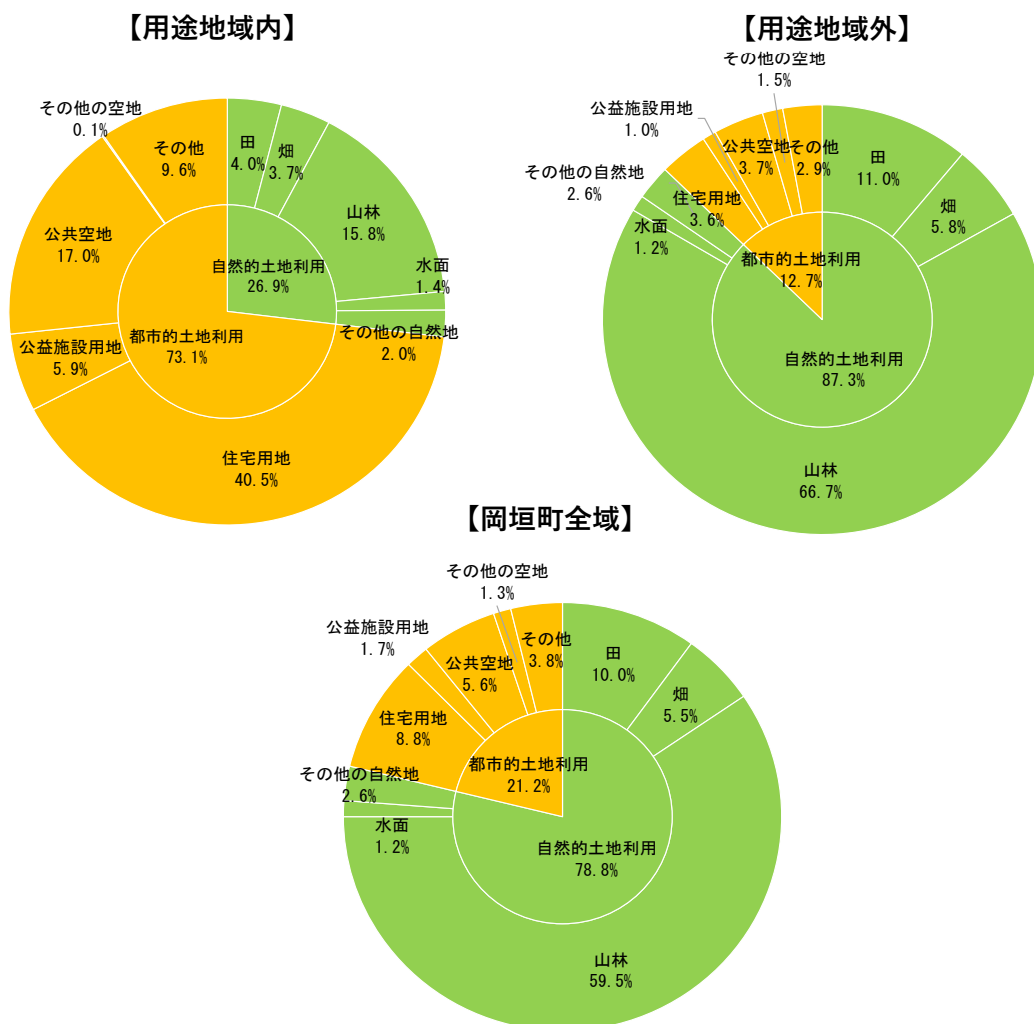
用途地域外の 87.3%は自然的土地利用であり、山林が全体の 66.7%、農地（田・畑）は全体の 16.8%を占めています。

(3) 岡垣町全域の土地利用状況

町域の 78.8%が自然的土地利用、21.2%が都市的土地利用となっています。

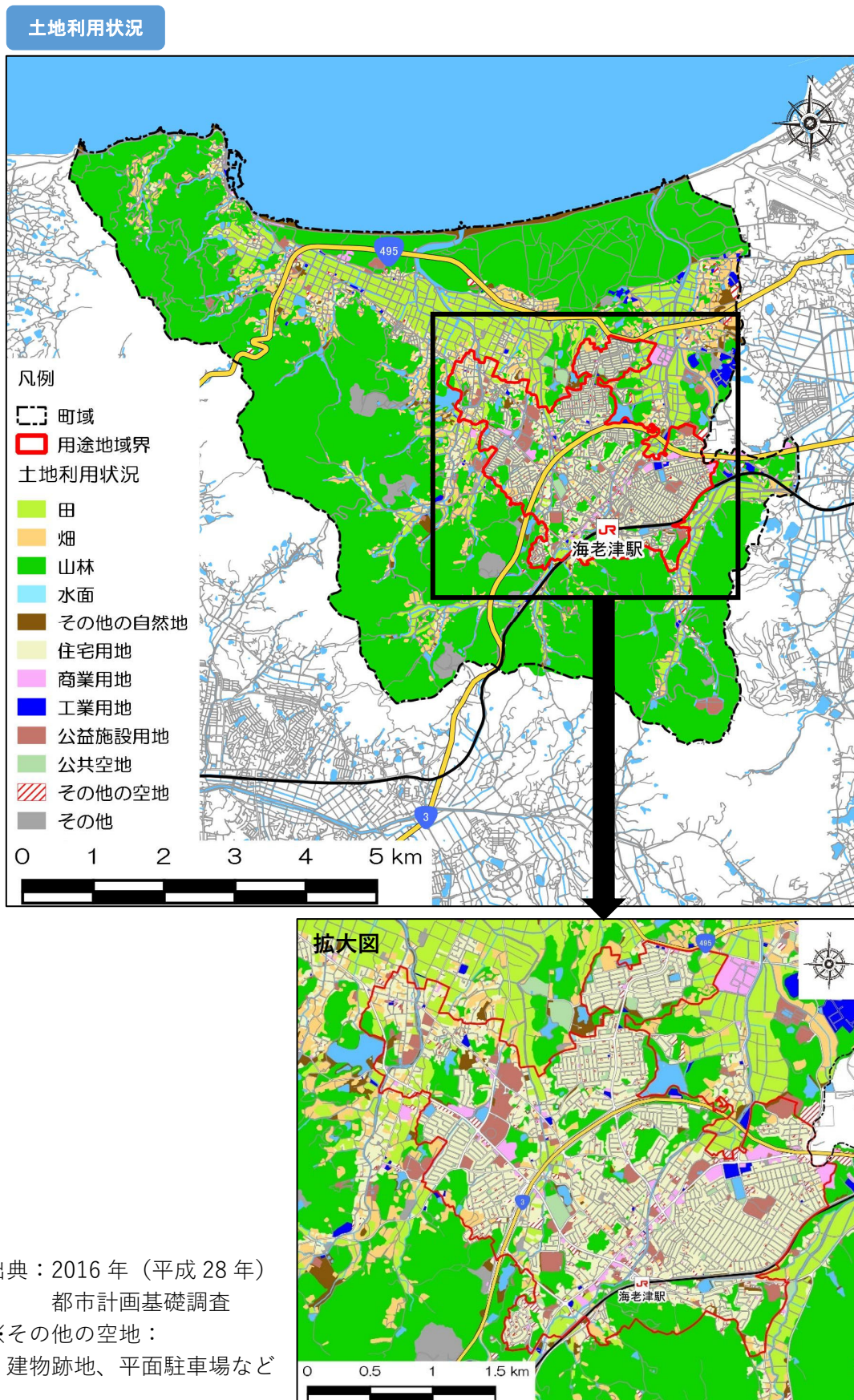
山林としての利用が最も多く全体の 59.5%を占めており、農地(田・畑)は 15.5%、住宅用地は 8.8%を占めています。

土地利用状況



出典：2016 年（平成 28 年）都市計画基礎調査

※その他に含まれる項目：商業用地、工業用地、農林漁業施設用地、道路用地、未利用宅地



出典：2016年（平成28年）
都市計画基礎調査

※その他の空地：
建物跡地、平面駐車場など



3. 公共交通の状況

(1) 鉄道

①整備状況

町内の鉄道は JR 鹿児島本線が整備されており、駅は JR 海老津駅が立地しています。

②運行状況

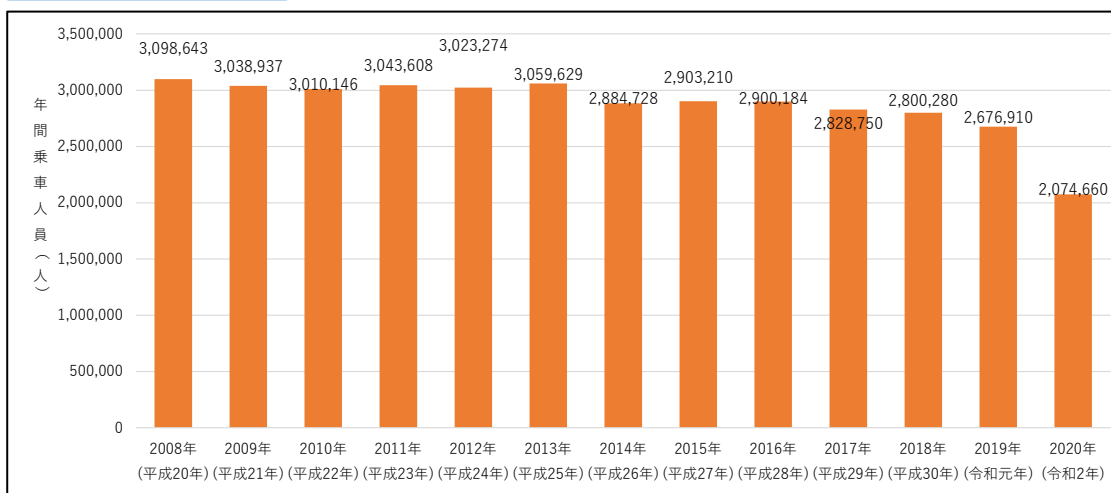
JR 海老津駅は一部の快速及び区間快速停車駅であり、小倉駅まで最短で 35 分、博多駅まで最短で 42 分でアクセス可能となっています。

1 日の運行本数は小倉方面が 65 本/日、博多方面が 75 本/日となっており、1 時間当たりの運行本数は、多い時間帯で小倉方面は 6 本/時、博多方面は 7 本/時となっています。

③利用状況

JR 海老津駅の乗降人数は、2015 年（平成 27 年）以降は減少傾向にあります。2020 年（令和 2 年）は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数が激減しています。

JR 海老津駅の利用状況



出典：岡垣町第 4 次公共交通体系整備計画

(2) 路線バス・コミュニティバス

①整備状況

町内の路線バスは西鉄バスが運行しており、波津系統、松ヶ台循環、JR 海老津駅～赤間営業所の3路線あります。また、コミュニティバスは、市街地エリアを中心に3路線あります。

②運行状況

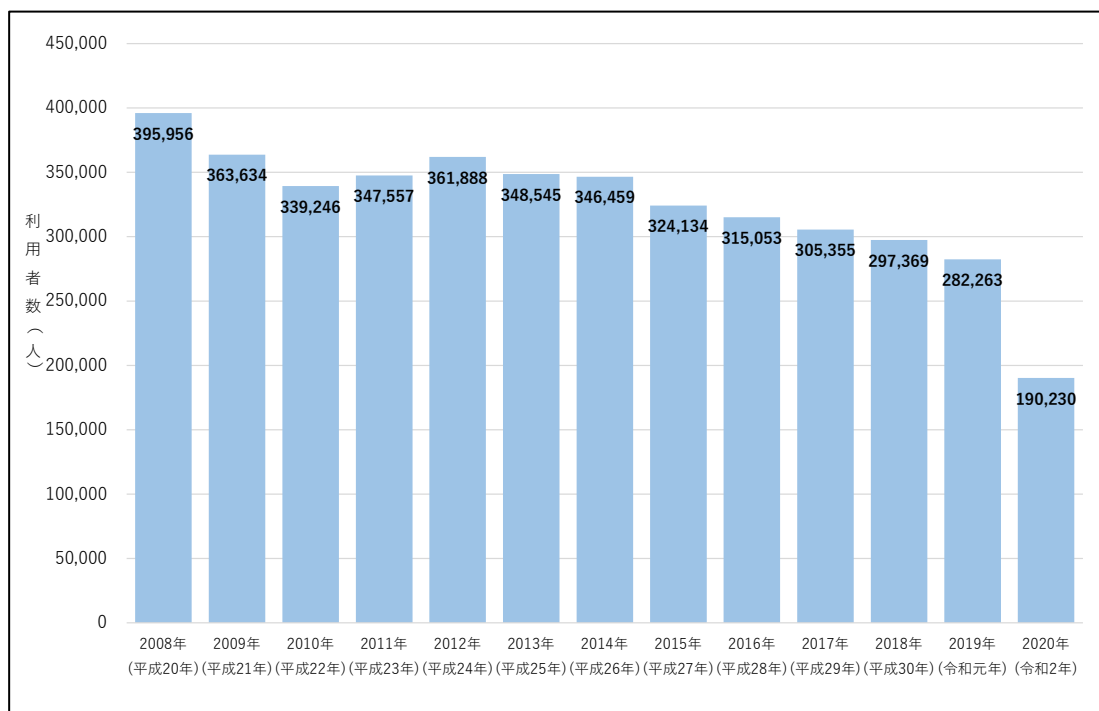
西鉄バスでは、1日の運行本数が波津線（松ヶ台循環）で39本/日と最も多くなっており、コミュニティバスは市街地エリアを中心に1路線が6～8本/日運行しています。

その他、路線バス、コミュニティバスの運行がない地域においては乗合タクシーを運行しています。

③利用状況

路線バスとコミュニティバスを合わせた利用者数は、2008年（平成20年）の39.6万人をピークに減少を続けています。2020年（令和2年）は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は19.0万人まで減少しています。

路線バス・コミュニティバスの利用状況



出典：岡垣町第4次公共交通体系整備計画

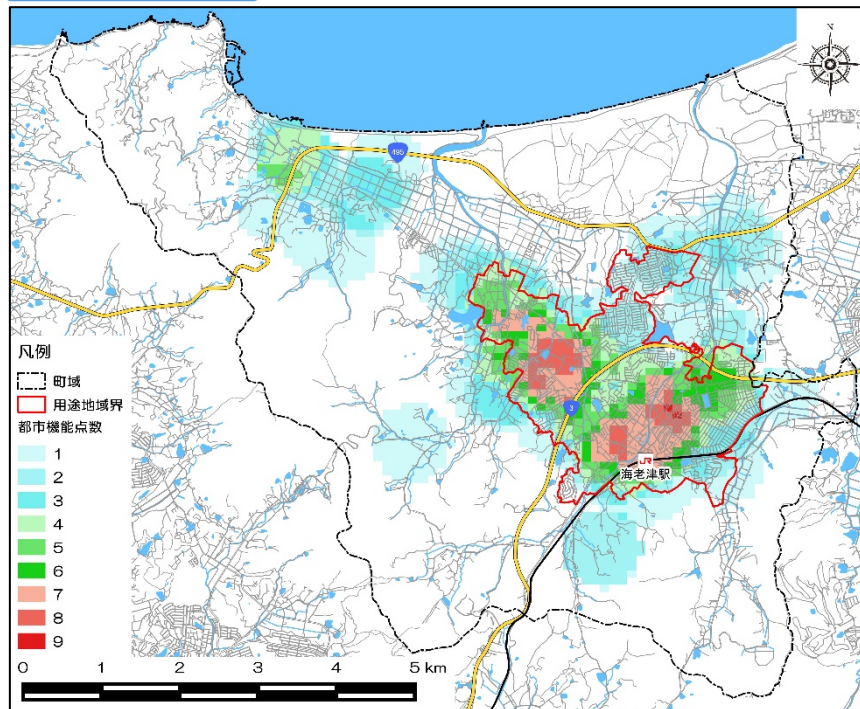


4. 都市機能の状況

都市機能の集積状況を把握するために、100mメッシュ単位での都市機能集積状況図を作成し箇所ごとに都市機能の利便性を評価しました。

点数が高い箇所ほど近隣に多数の都市機能が立地し、利便性が高いことを示しています。町内の都市機能の集積状況をみると、特に JR 海老津駅北側と用途地域の西側の区域において都市機能点数が高い区域が広がっています。

都市機能の集積状況



■都市機能の加算対象とした施設と加算条件

運行本数の多い公共交通	鉄道駅から500m圏内、運行本数が15本/日以上バス路線の停留所から300m圏内
医療施設	診療科目に「内科」「外科」「小児科」を含む病院・診療所の500m圏内
高齢者福祉施設	「通所型介護施設」「訪問介護施設」「短期入所施設」「小規模多機能型居宅介護」の500m圏内
商業施設	「スーパーマーケット」の500m圏内 「コンビニエンスストア」「ドラッグストア」の500m圏内
子育て支援施設	「幼稚園」「保育所」「認定こども園」「届出保育施設」の500m圏内 「児童厚生施設・地域子育て支援拠点施設」の500m圏内
教育施設	「町立小学校」「町立中学校」の500m圏内
金融機関	「銀行」「信用金庫」「労働金庫」「農協」「郵便局」の500m圏内 ※ATMコーナーを除く
文化施設	「図書館」の500m圏内 「公民館」の500m圏内 「地域交流センター」の500m圏内

◆都市機能については、上記施設を対象に各施設から 500m圏域内^{※1}、路線バス停留所の利用圏域は 300m^{※2}とします。

※1：高齢者が休憩をせずに歩くことのできる歩行継続距離（健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン（技術的助言）より）

※2：都市構造の評価に関するハンドブックより

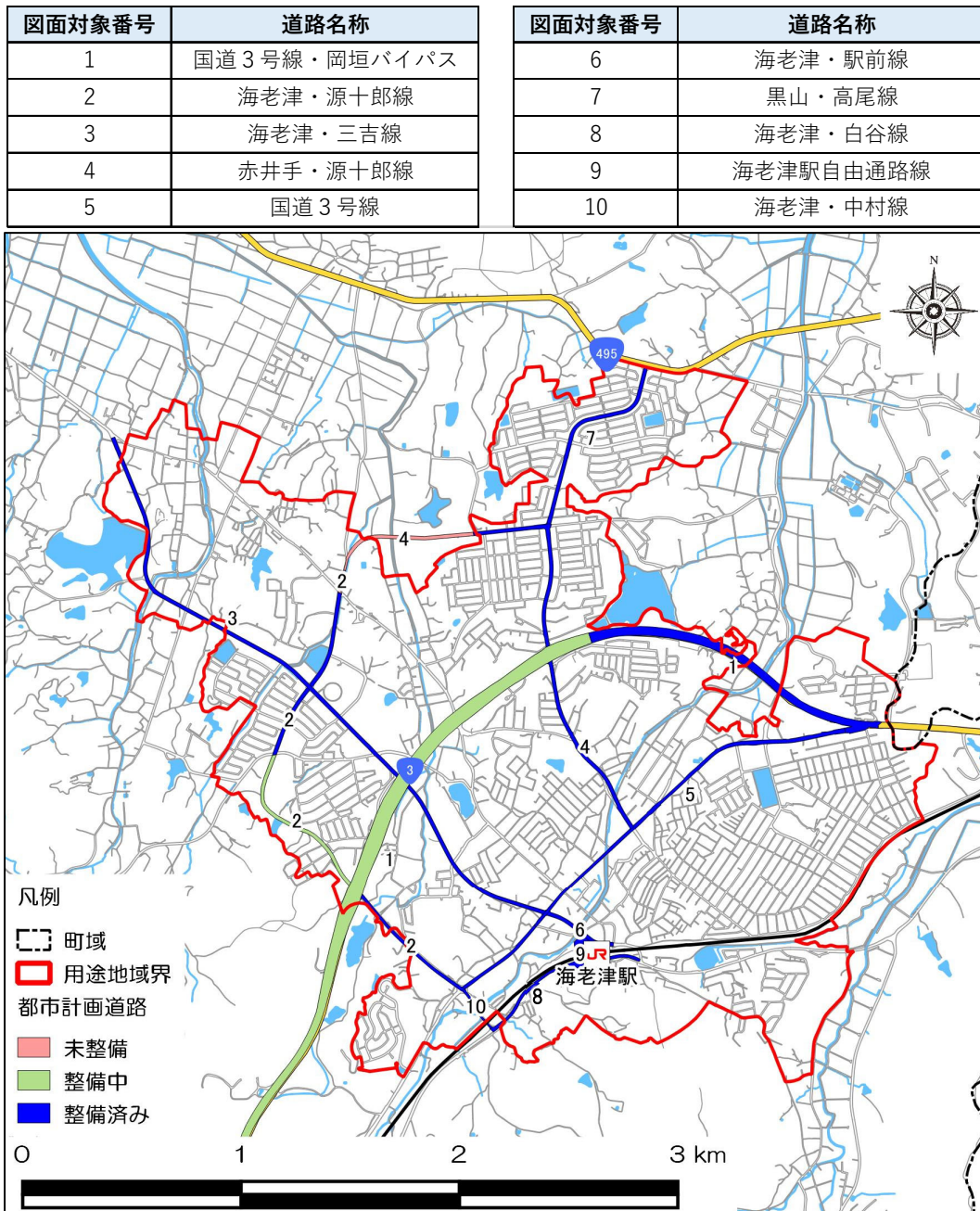
出典：各種データをもとに作成

5. 都市基盤の整備状況

(1) 都市計画道路

町内の都市計画道路は10路線あり、「1 国道3号線・岡垣バイパス」「2 海老津・源十郎線」の一部区間が整備中となっています。また、「4 赤井手・源十郎線」の一部が未整備となっています。

都市計画道路の整備状況



出典：2016年（平成28年）都市計画基礎調査をもとに
最新のものに更新（2022年（令和4年）3月現在）

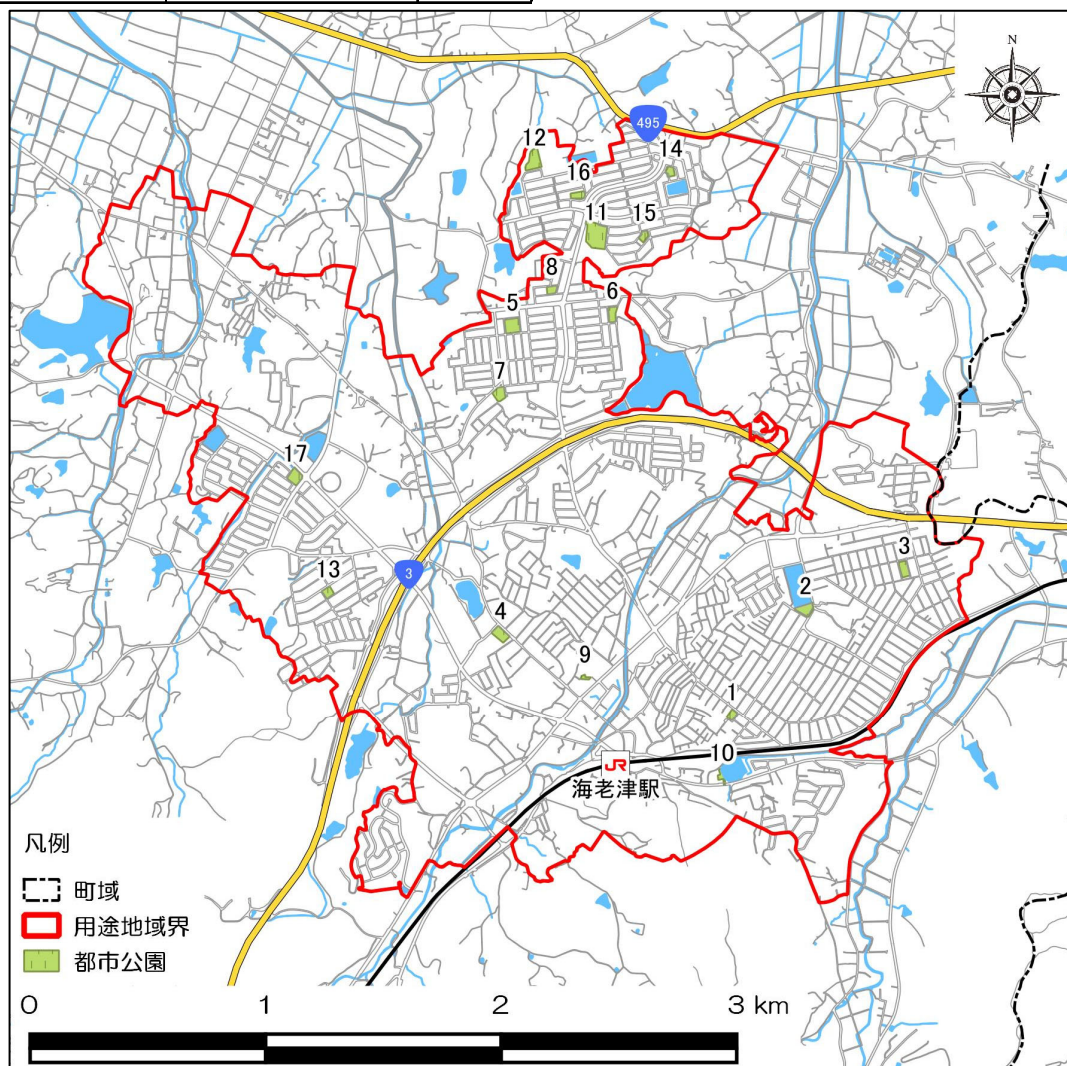


(2) 都市計画公園

都市計画公園の整備状況をみると、17箇所では整備がされている状況であり、現在整備中の都市計画公園はありません。

都市計画公園の整備状況

図面対象番号	公園名称	面積	図面対象番号	公園名称	面積
1	岡垣第1公園	1,651㎡	10	白谷公園	1,128㎡
2	桜公園	2,886㎡	11	松ヶ台ふれあい公園	7,792㎡
3	古鍋田公園	2,358㎡	12	松ヶ台西公園	4,190㎡
4	ゼゼ町公園	1,930㎡	13	井堀公園	1,570㎡
5	旭中央公園	3,792㎡	14	松ヶ台東公園	1,077㎡
6	旭東公園	3,297㎡	15	松ヶ台南公園	1,247㎡
7	旭西公園	2,521㎡	16	松ヶ台大浦公園	1,273㎡
8	高尾公園	1,425㎡	17	けやき公園	2,583㎡
9	新海老津公園	783㎡			



出典：2016年（平成28年）都市計画基礎調査

(3) 下水道

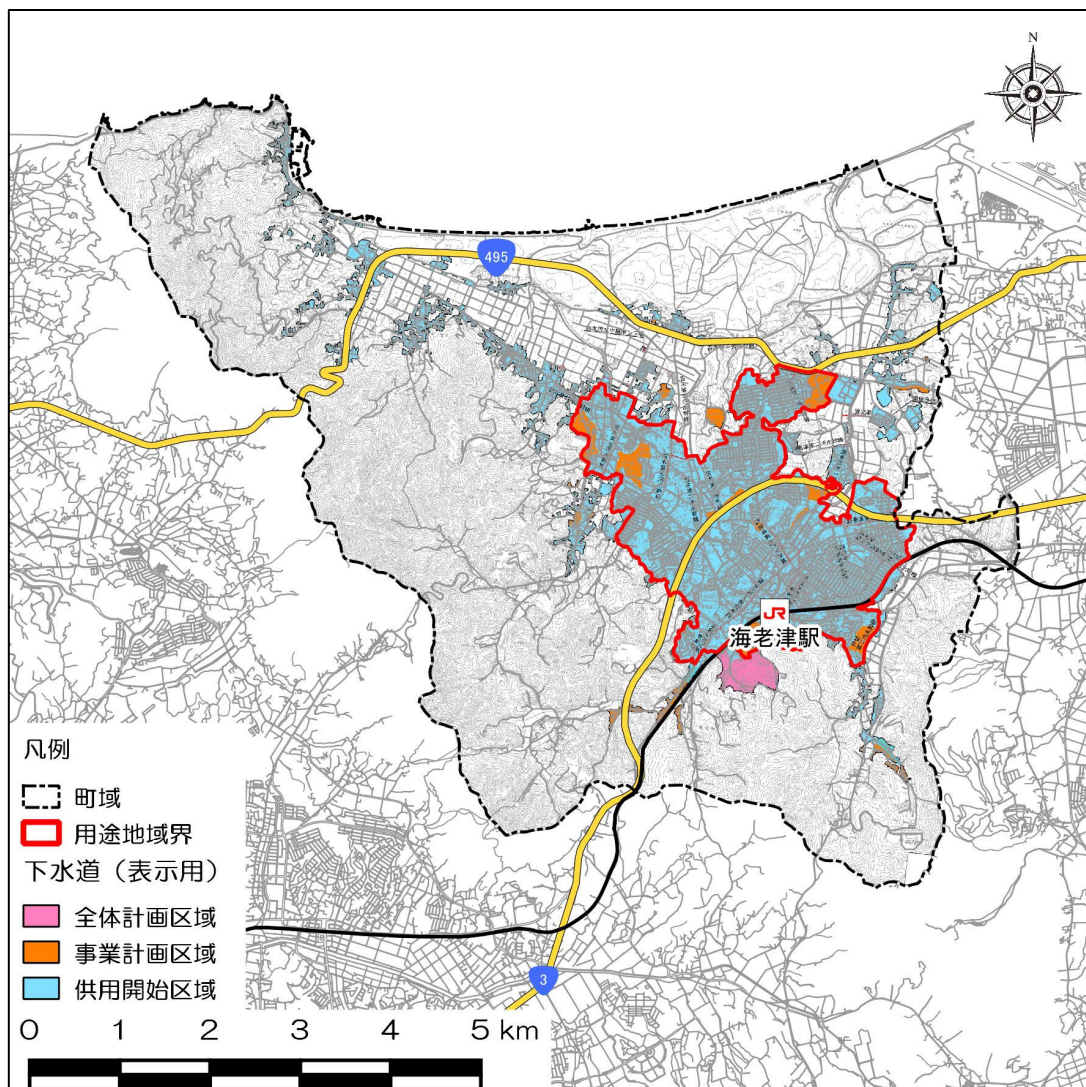
下水道の普及率は94.22%となっており、町内の下水道整備状況をみると、用途地域のほぼ全域が供用開始区域となっています。また、県道原海老津線沿道などといった用途地域外の集落において下水道の供用が開始されています。

下水道の普及率

人口	処理区域人口	普及率
31,569 人	29,743 人	94.22%

出典：岡垣町資料（2021 年（令和 3 年）時点）

下水道の整備状況



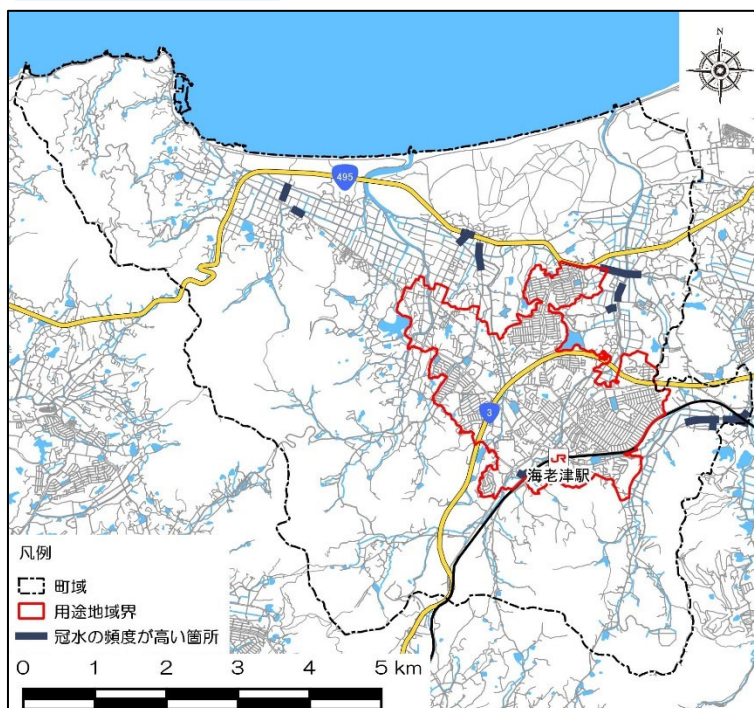
出典：岡垣町資料（2021 年（令和 3 年）時点）



6. 災害の状況

これまでの大雨によって矢矧川、戸切川沿岸など道路が冠水する頻度が高かったこともあり、町として注意を呼び掛けている箇所が町内に15カ所あります。

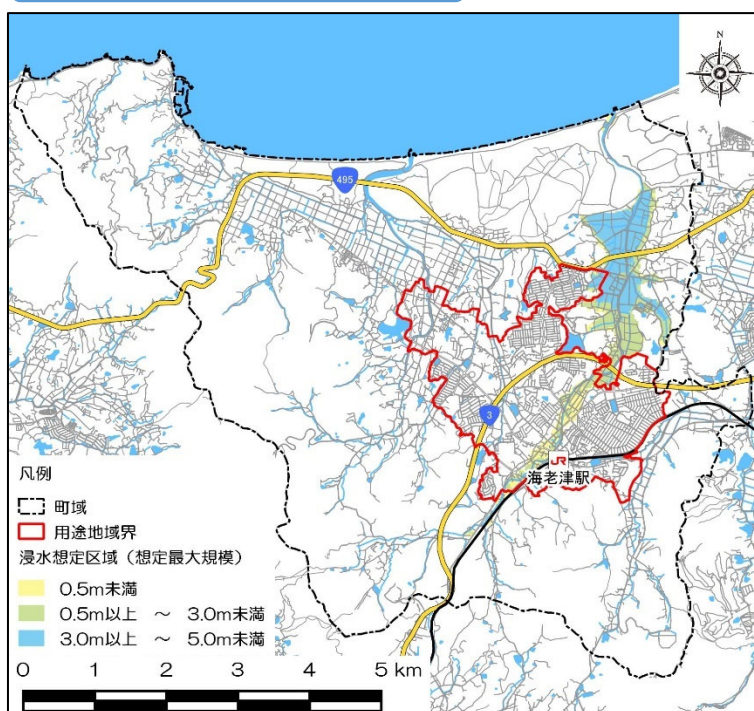
冠水の頻度が高い箇所



出典：岡垣町総合防災マップ

想定しうる最大規模の降雨が発生した際の浸水想定区域を見ると、矢矧川下流域及びJR海老津駅北側において最大5.0m未満の浸水被害が想定されています。

浸水想定区域(想定最大規模)の状況

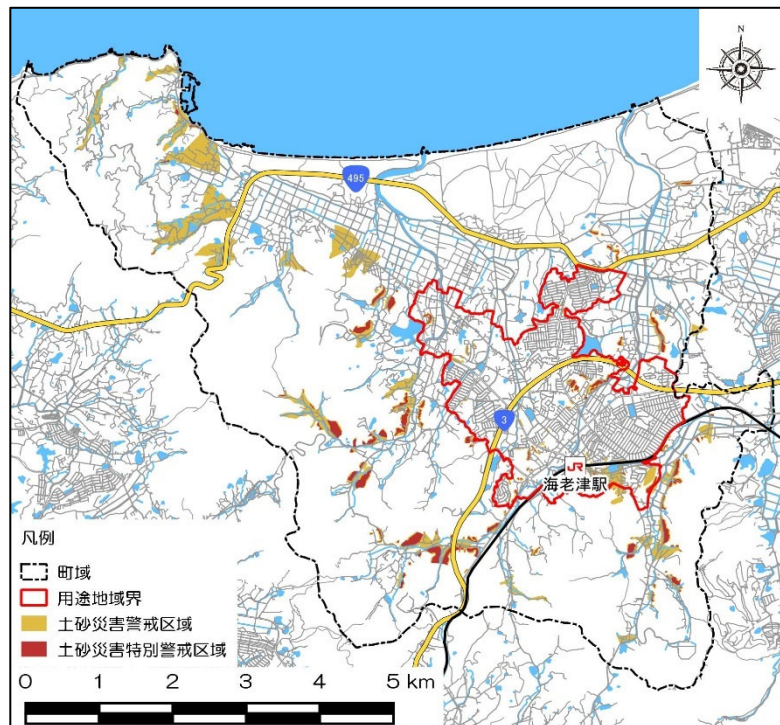


出典：福岡県洪水浸水想定区域図

町内の山沿いなどにおいて土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域が指定されています。

そのほか、JR海老津駅南側の用途地域内においても土砂災害警戒区域が指定されています。

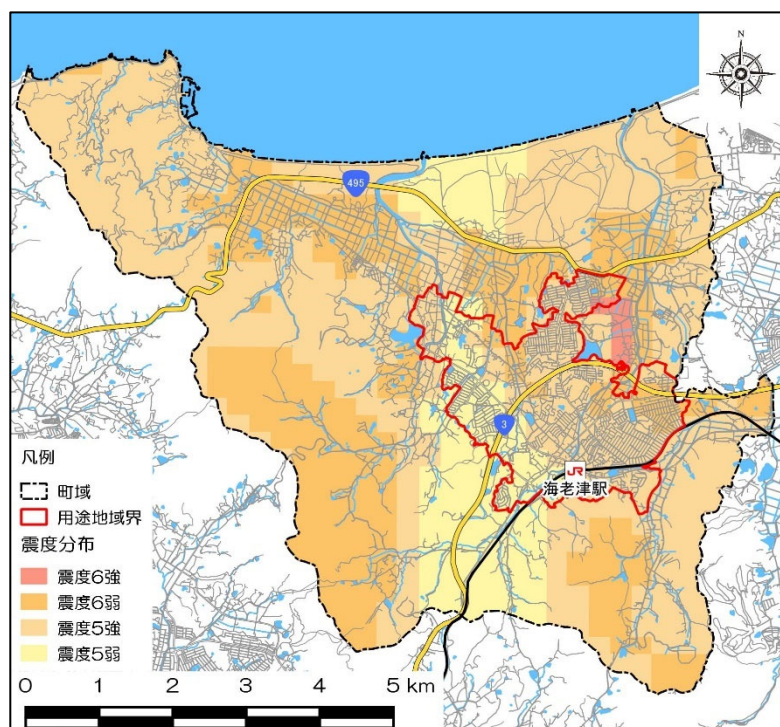
土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の状況



出典：福岡県土砂災害危険箇所マップ

町内で最も大きな被害が想定されている西山断層帯地震（M7.3程度）が発生した際、岡垣町内においては震度5弱から6強の揺れが想定されています。

西山断層帯地震が発生した際の震度分布



出典：福岡県地震に関するアセスメント調査報告書（平成24年3月）



3 住民アンケートの結果

岡垣町にお住まいの方を対象に、岡垣町の現状についてどのように思っているのか、将来の岡垣町がどのようになって欲しいかについて、以下のとおりアンケート調査を実施しました。

【調査名称】 岡垣町 将来の都市づくりに関する住民アンケート

【調査期間】 2020年9月25日 ～ 2020年10月9日

【調査方法】 調査票の郵送ならびに web での実施

(町広報、町公式 LINE・Facebook での周知)

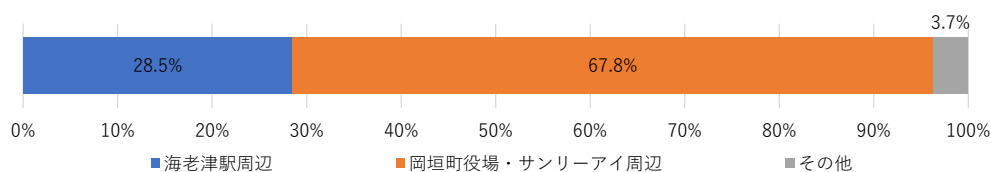
【回答者及び回収率】 紙面版 : 862名/1,500名 (回収率: 57.5%)

Web 版 : 176名

合計 : 1,038名

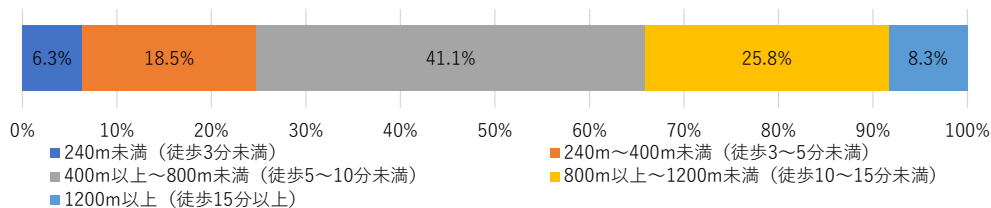
○アンケートの結果は、以下のとおりです (抜粋)

設問①：あなたにとって町の中心拠点はどこだと思いますか。



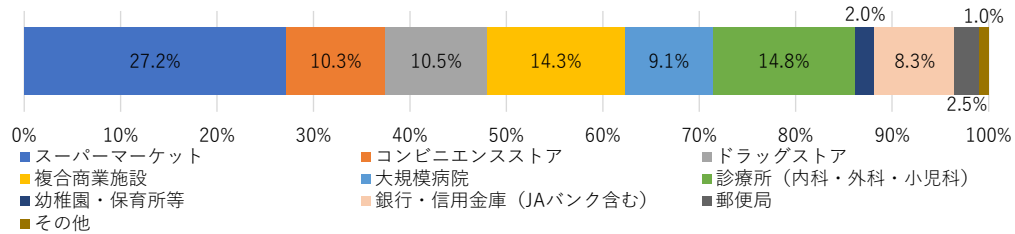
町役場・サンリーアイ周辺を中心拠点と思われる方が多い傾向でした。
JR 海老津駅周辺は交通結節点としての拠点といった認識の方が多数みられました。

設問②：あなたは買い物や通院に、どのくらいの距離であれば歩いて行きますか。



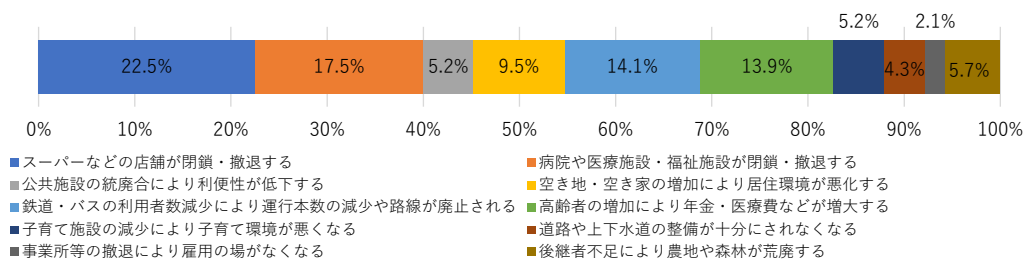
「800m 未満」と回答した人が半数以上を占めており、多くの方がイメージする徒歩圏は 800m 程度といった結果となりました。

設問③：JR 海老津駅周辺や町役場周辺などの拠点となる場所の徒歩圏内（800m（概ね10分以内））に特に必要と思う施設は何ですか。



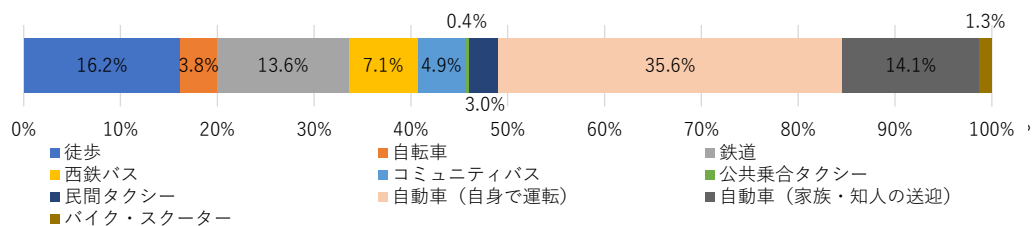
スーパーマーケットなどの商業施設や診療所を求める意見が多数みられました。

設問④：人口減少・少子高齢化の進行により予想される影響について、あなたが特に困ると思う事は何ですか。



スーパーなどの店舗閉鎖や医療福祉施設の閉鎖など、地域活力が低下する点が困るといった意見が多数みられました。

設問⑤：あなたがよく利用する交通手段についてご回答ください。

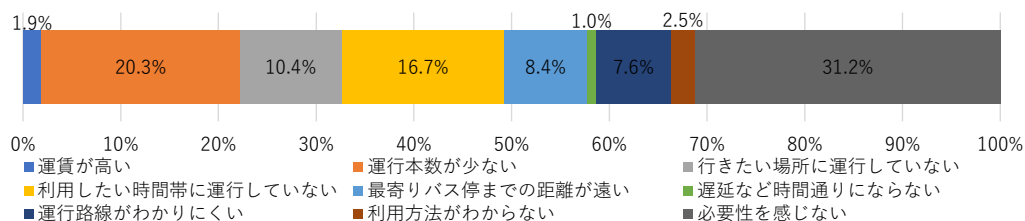


公共交通（鉄道、バス）の利用が一定数ある一方で、自動車による移動が約半数みられました。



設問⑥：公共交通を利用しない理由についてご回答ください。

(利用しない人のみ対象)

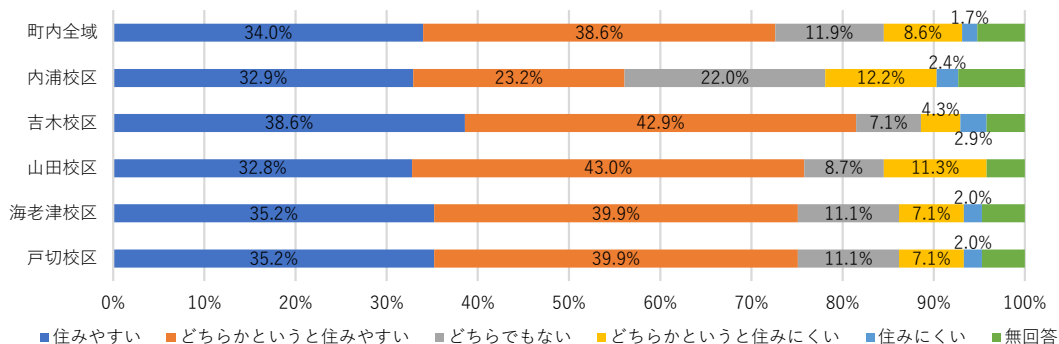


「必要性を感じない」のほか、「運行本数が少ない」、「利用したい時間に運行していない」といった意見が多数みられました。

自由意見においては、JR 海老津駅との接続性についての意見が多数みられました。

第6次総合計画の策定にあたって実施した住民アンケートでは、岡垣町の住みやすさや住みやすい理由、今後力を入れるべき部分についての調査を実施しました。

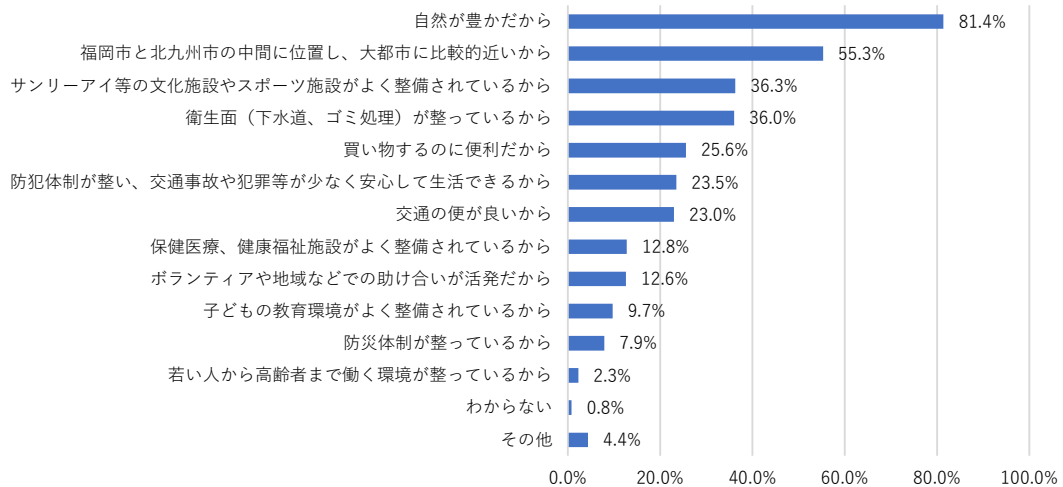
設問①：岡垣町は住みやすいと思いますか。



町内全域では、「住みやすい」、「どちらかという住みやすい」あわせて72.6%となりました。

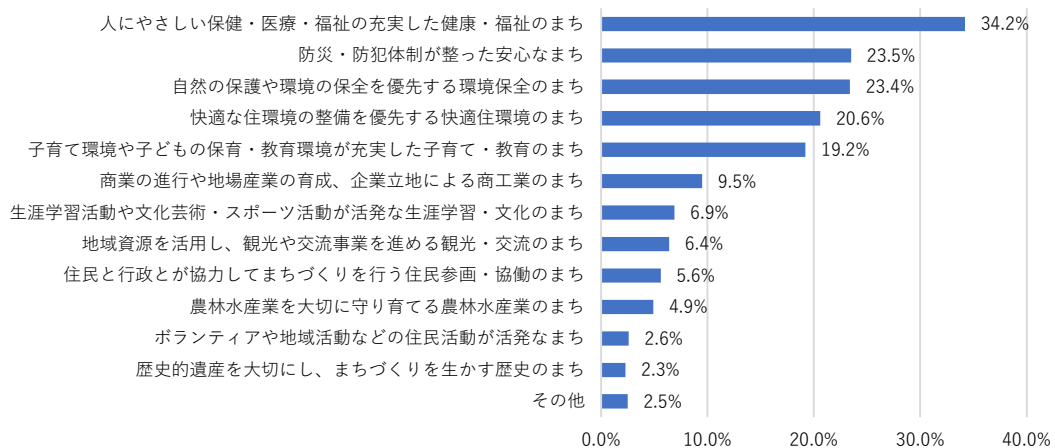
校区別では吉木校区が特に「住みやすい」といった意見が多数みられました。

設問②：住みやすい理由は何ですか。



「自然が豊かだから」と「福岡市や北九州市の中間に位置し、大都市に比較的近いから」といった意見が多数みられました。

設問③：あなたは、岡垣町が今後どのようなまちづくりに力を入れていくべきだと思いますか。



「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」といった意見が多数みられました。



4 課題点の整理

1. 人口動向・将来見通しについて

【利便性の高い箇所への人口集積による持続性のある都市づくりが必要】

人口減少や高齢化が進行すると地域コミュニティの衰退や地域活力の低下が懸念されます。

そのため、利便性の高い箇所へ住み替えるなどの人口誘導を図ることによって、持続性のある都市づくりを進めることが望まれます。

2. 都市基盤について

【都市計画道路の整備による良好な道路ネットワークの形成が望まれる】

現在、2車線から4車線へ拡幅整備をする「国道3号線・岡垣バイパス」及び岡垣バイパスから町の北側にアクセスする「海老津・源十郎線」の一部区間が整備中となっています。

今後も、地域をネットワークする幹線道路の整備が望まれます。

【インフラ維持・管理コストの効率化が望まれる】

将来的に道路、橋梁、上下水道などの老朽化に伴う維持・更新コストが増加することが予測されており、人口減少を見据え、人口規模に見合ったインフラの効率化が望まれます。

3. 都市機能について

【JR海老津駅周辺における都市機能の集積が望まれる】

アンケート結果では、町の玄関口であるJR海老津駅の周辺に商業施設の立地を求める意見が多数ありました。

JR海老津駅周辺は町の顔ともなる部分であり、当該地区の賑わいの状況が町の魅力として直結するため、商業施設を集積させ、賑わいのある町の玄関口を目指すことが望まれます。

4. 都市環境について

【良質な水源・水道水の維持・保全が必要】

町の水道水のうち85%は地下水によって賄われており、安全でおいしい水が町内全域で供給されています。

地下水の水質を守ることによって良質な水道水を供給することが町の魅力の一つであることから、森林・緑地の保全を図り将来的にも水質環境を保全することが望まれます。

【地域が求める公園づくりが望まれる】

町内においては、豊かな自然環境がある一方で住民一人当たりの公園整備面積は少ない状況となっています。

そのため、公園緑地の必要性については現状の分布などを踏まえながら、自然環境を活かした施設整備や住民ニーズを踏まえた公園づくりが望まれます。

5. 田園環境について

【豊かな自然環境・田園環境の保全を図ることが必要】

将来にわたり町の豊かな自然環境を維持していくためには、三里松原や波津海岸などといった自然環境を守るほか、周辺環境に影響を及ぼす施設の開発を調整することによって田園環境などの保全を図ることが望まれます。

【農漁村における集落環境の維持が望まれる】

町の郊外エリアにおいては、農業・漁業集落がいくつかあり、人口減少が進むとこれらの地域においても集落環境の維持が困難になることが懸念されます。

農業・漁業集落においても住環境の維持を目指すことによってコミュニティや生活利便性を維持することが望まれます。



6. 公共交通について

【公共交通の充実による高齢者の移動手段確保が望まれる】

アンケート結果では、公共交通の利便性向上を求めている意見が多数みられた一方で、自分で運転ができない人はバスなどの公共交通以外に家族や知人の送迎やタクシー利用をしている傾向にありました。

このことから、公共交通の充実によって自家用車に過度に依存しない交通体系を形成し、高齢者の移動手段を確保することが望まれます。

【鉄道・バス利用に対するニーズを踏まえた公共交通の見直しが望まれる】

アンケート調査においては、公共交通を利用したい意向がある一方で利用時間などの理由によりやむを得ず自家用車を利用している意見がありました。

そのため、町が運行するコミュニティバスについては、JR 海老津駅を発着する鉄道の時刻や通勤通学時間帯を踏まえた運行時刻の見直し、利用ニーズを踏まえた運行系統の見直しが望まれます。

【農漁村集落における公共交通の維持が望まれる】

農漁村集落は人口密度が低く、利用者数が少ないため路線バスの維持が困難な地域となっています。

そのため、この地域の移動手段を確保する観点から、路線バスに代わる交通手段導入など公共交通を維持することが望まれます。

【徒歩や自転車の利用環境整備が望まれる】

自家用車に過度に依存しない交通体系を推進するためには、公共交通のみならず徒歩や自転車の利用を促進する必要があります。

そのため、安心して歩いたり、自転車の通行ができるような環境整備が望まれます。

7. 地域福祉について

【高齢者福祉の考え方を踏まえた都市整備の検討が望まれる】

高齢者福祉については、生まれ育った場所で介護を必要とせずに安心して暮らせるような環境整備も求められることから、高齢者福祉の考え方を踏まえた都市整備の検討が望まれます。

8. 地域防災について

【防災面にも配慮した都市づくりが求められる】

浸水被害が発生した場合であっても、人的被害が生じないような対策が求められますが、今後の河川改修の予定を踏まえ、浸水リスクの高いエリアにおいての方針を位置付け、町民の自主避難を促すなどソフト面での対策が求められます。